

筑後川水系河川整備計画

<変更原案概要版>



流域の概要



筑後川水系流域図

筑後川は、その源を熊本県阿蘇郡阿蘇高原に発し、高峻な山岳地帯を流下して、日田市において、くじゅう連山から流れ下る玖珠川を合わせ典型的な山間盆地を流下し、その後、夜明峡谷を過ぎ、佐田川、小石原川、巨瀬川及び宝満川等多くの支川を合わせながら、肥沃な筑紫平野を貫流し、さらに、早津江川を分派して有明海に注ぐ、幹川流路延長143km、流域面積2860km²の九州最大の一級河川です。

河川整備基本方針・河川整備計画の策定経緯

筑後川水系では平成15年10月に長期的な視点に立った河川整備の基本的な方針を定める「筑後川水系河川整備基本方針」を策定しています。これに基づき、筑後川水系の国が管理する区間において、中期的な河川整備の目標と整備内容を定めた「筑後川水系河川整備計画【大臣管理区間】」を平成18年7月に策定。

その後、平成29年7月出水を受け、平成30年3月に河川整備計画を一部変更しました。

変更に至った経緯

- 平成29年7月の九州北部豪雨では、花月川のほぼ全川でHMLを超過するとともに、沿川では外水及び内水による多数の家屋浸水被害が発生したことにより、平成30年3月に河川整備計画を一部変更（花月川の流量変更）。
- 赤谷川、桂川等の筑後川中流平野右岸圏域でも、豪雨被害を受け平成30年7月に河川整備計画を策定し、治水安全度向上対策事業（災害復旧+改良復旧）を実施中。
- 佐田川についても平成29年7月九州北部豪雨の状況も踏まえて必要と考えられる治水安全度を確保するため、現行整備計画にさらに追加が必要なメニューを位置づけるべく、河川整備計画の一部変更を実施することとした。

計画の概要

基本理念

筑後川の河川整備においては、筑後川とそこに暮らす地域の人々の営みによって創り出された自然・歴史・文化等に配慮し、源流から有明海に至る流域全体が調和した、「安らぎと感動の筑後川」を目指します。

～ 安らぎと感動の筑後川 ～

河川整備に取り組むにあたって、五つの柱を掲げ、これらに則した整備に総合的・一体的に取り組んでいくことにより、筑後川流域の安全・安心・安定、そして豊かな環境を次世代につなぐことを目指します。

守ろう！ 流域のくらし

災害に強い基盤づくりと地域防災力の向上を目指します。

- ・危険の軽減と安全の質の向上
- ・防災情報の普及と質の向上
- ・災害に強いまちづくり
- ・自助、共助、公助体制の構築

築こう！ 川の恵みで 豊かな社会

川の恵みを分かち合い豊かな水の社会を目指します。

- ・慢性的な渇水の軽減
- ・川の水量と水利用の調和
- ・水利用調整の場の構築

伝えよう！ 筑後川らしい 自然環境

筑後川の個性あふれる環境を未来に伝えます。

- ・動植物の生息・生育環境の保全
- ・山から海までの視点（水・土砂）・水質の保全と向上
- ・独特の汽水域環境の保全
- ・川のダイナミズムの保全と創出
- ・美しい河川景観

育もう！ 川の楽しみ、 川のよこび

川の楽しみ・よこびで感性を育む筑後川を目指します。

- ・自然体験、環境学習の場
- ・人材の育成
- ・癒し、やすらぎの場
- ・まちの賑わい
- ・川と人との繋がり
- ・食のよこび

創ろう！ 筑後川 コミュニティ

人と筑後川との絆から豊かな地域社会を創造します。

- ・川を介した地域コミュニティ
- ・住民、NPO、行政等の連携協働
- ・川への畏敬の念
- ・上下流の思いやり、流域連携
- ・流域の文化や芸術の継承、創出

河川整備計画の対象区間・対象期間

筑後川水系河川整備計画の計画対象区間は、筑後川水系の国管理区間とします。本計画の対象期間は概ね20年とします。



筑後川水系河川整備計画の対象区間

大臣管理区間（延長：175.6km）

河川整備計画（変更）の要点

①法律改正及び答申等を踏まえた変更

- 「流域治水」に関する記載の追加
- 「DXへの取り組み」に関する記載の追加
- 「持続可能な社会の形成」に関する記載の追加

②平成29年7月洪水対応

- 佐田川において、新たに寺内ダムの洪水調節機能の強化及び河道掘削、また新規箇所の新築堤を河川整備計画に位置づけ

③その他の事項による修正

- 現行計画に記述している統計データの時点修正
- 整備の進捗状況に合わせた記載内容の時点修正

河川整備計画の記載内容の主な変更点

河川整備計画の目標に関する事項

洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

（省略）

さらに、想定し得る最大規模までのあらゆる洪水を想定して、あらゆる関係者が連携し流域全体で実施する治水対策「流域治水」による筑後川流域の強靱化を推進することで、洪水氾濫等による災害の発生防止又は軽減を図ることを目指します。

（中略）

今後、流域の土地利用の変化や、雨水の貯留・浸透機能及び沿川の遊水機能の向上等に伴う流域からの流出特性の変化について、河川への流量低減効果としての定量化を図り、治水効果として見込めることが明らかになった場合も、適宜見直しを行います。

洪水対策

（省略）

上下流及び本支川の治水安全度のバランスを確保しつつ段階的かつ着実に整備を進め、洪水による災害に対する安全度の向上を図ります。なお、気候変動の進展等を踏まえ、必要がある場合には、適宜整備計画の変更を行い、安全度の向上を図ります。さらに、集水域と氾濫域を含む流域全体で、あらゆる関係者が協働して行う総合的かつ多層的な治水対策を推進し、避難体制の構築等により、人命・資産・社会経済の被害軽減を図ります。

（中略）

また、佐田川については、平成29年7月洪水と同規模の洪水に対して、被害の防止または軽減を図るために、整備計画目標流量を540m³/sとし、河道への配分流量を350m³/sとします。

河川名	河道配分流量 (m ³ /s)	整備計画目標流量 (m ³ /s)	地点
佐田川	350	540	金丸橋

※赤字は今回の変更にて変更・追加した内容です。

内水対策

内水対策については、既設排水機場の適切な運用・管理を行うとともに、本川の水位を低下させ、支川からの排水をやすくすることで、内水氾濫の被害軽減につなげる取組などの治水対策の推進（河川における対策）を行います。また、地域住民を含めた関係機関と連携して、適切な役割分担のもと、支川の氾濫抑制や流出抑制、住まい方の工夫に関する取組など、地域が連携した浸水被害軽減対策を推進（流域における対策）します。さらに、自治体と協働で減災に向けた更なる取組（まちづくり、ソフト対策）を推進し、関係機関と連携した総合的な内水対策に取り組み、家屋等の浸水被害の軽減を図ります。

施設の能力を上回る洪水を想定した対策

「施設では守り切れない大洪水は必ず発生する」との考え方に立ち、氾濫をできるだけ防ぐ・減らすため、流域内の土地利用や水田、ため池等の分布状況を踏まえ、雨水の貯留や、遊水機能の状況の把握、また、関係市町村の都市計画や地域計画との連携を図り、土砂・流木対策や氾濫制御の検討も含めた多層的な流域治水の取組を「筑後川・矢部川流域治水協議会」等を通じて関係機関と連携して取組を進めます。

また、避難・水防対策を「筑後川・矢部川大規模氾濫に関する減災対策協議会」を通じて推進し、リアルタイム情報の発信、円滑かつ迅速な避難の促進、的確な水防活動の促進、迅速な応急活動の実施、防災教育や防災知識の普及、水害リスクを考慮したまちづくり・地域づくりの促進等のソフト施策を一体的・計画的に推進し、流域の関係機関と連携して施設の能力を上回る洪水が発生した場合においても、逃げ遅れゼロと社会経済被害の最小化を目指します。

（省略）

河川の整備の実施に関する事項

洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する考え方

（省略）

支川小石原川、佐田川及び城原川については、既設の小石原川ダムに加え、寺内ダムの洪水調節機能の強化及び城原川ダムの整備により洪水を調節し、

（中略）

ICTやBIM/CIM等を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組むことにより、維持管理を考慮した設計・施工とし、併せて工事中の濁水、土砂の流出防止を図ります。

また、本支川および上下流バランスや沿川の土地利用を踏まえて、それぞれの地域で安全度の向上・確保を図り、水系として一貫した河川整備を実施します。本川と流入支川等の計画を相互参照することで、本川と支川が連携した河川整備を実施します。

必要に応じて、学識経験者等の意見を聴き、設計・施工等に反映させるとともに、施工中や施工後のモニタリングを行い、モニタリング結果はその後の設計・維持管理等へ反映を図ります。

※赤字は今回の変更にて変更・追加した内容です。

河道の流下能力向上

【支川佐田川】
大刀洗町金丸等において、堤防の高さ・幅及び河道断面が不足しており、洪水を安全に流下させることができないため、堤防の嵩上げ・拡幅、河道掘削等を実施します。また、施設管理者と調整し、洪水の流下阻害となっている桂川橋の架け替え等を実施します。
河道掘削にあたっては、タナゴ類の生息場となるワンド・たまり、オヤナミの生息場やヒクイナの採餌場となる水生植物帯、イカルチドリの繁殖場となる自然裸地などの保全・創出を図ります。

堤防整備箇所一覧表

河川名	左右岸	区 間	地 名	備 考
佐田川	左岸	0k100～2k550	大刀洗町三川、甘木市長田、金丸	背水影響区間
	右岸	0k000～2k550	大刀洗町三川、朝倉市長田、白鳥、小隈	
	右岸	3k400～3k750	朝倉市小田	

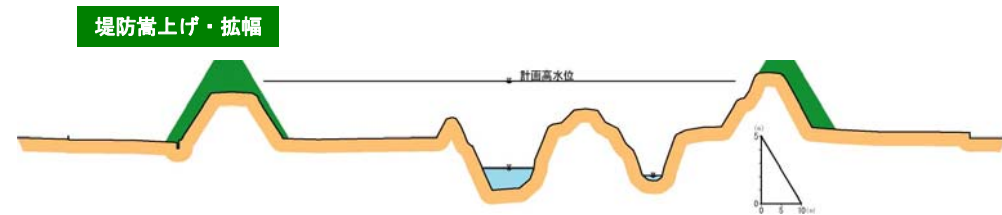
掘削箇所一覧表

河川名	左右岸	区 間	地 名	備 考
佐田川	左岸	2k170～2k300	朝倉市小隈、屋永、板屋	
	右岸	4k500～4k700 7k765～8k100		

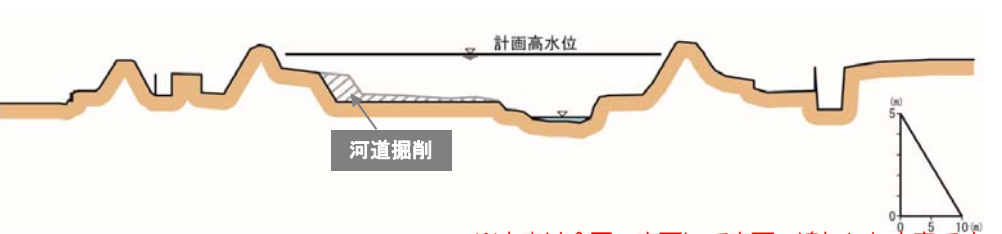
架替等橋梁一覧表

河川名	位 置	橋梁名	管理者	備 考
佐田川	0k600	桂川橋	福岡県知事	桁下高不足
	0k600	佐田川橋	福岡県知事	桁下高不足

佐田川 0k400付近



佐田川 4k600付近



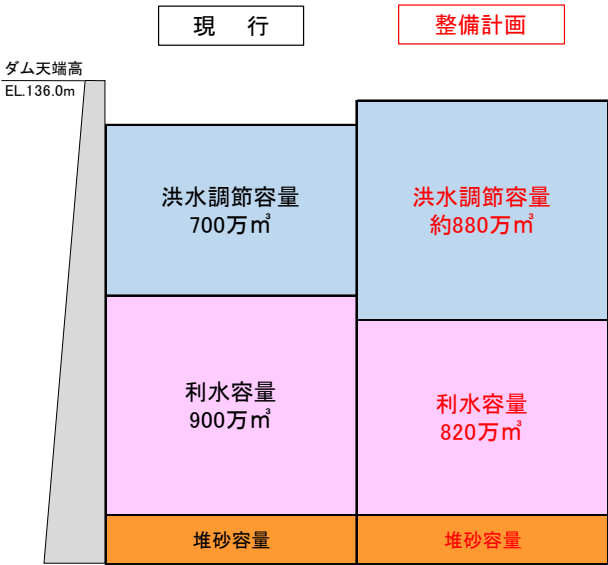
※赤字は今回の変更にて変更・追加した内容です。

洪水流量の低減

支川佐田川の金丸橋において、洪水流量を低減させるため、既存の寺内ダムの洪水調節機能の強化を実施します。
(中略)
①寺内ダム再生洪水調節機能の強化
支川佐田川において、金丸橋地点の河川整備計画の目標流量540m³/sのうち190m³/sの流量低減を図るため、既設寺内ダムを有効活用し、同ダムの洪水調節機能を強化します。
このため、同ダムの洪水吐き設備を改造しダム貯水位（洪水時最高水位）を変更するとともに、利水容量の一部を洪水調節容量に振り替えることにより、洪水調節容量を増大させます。

寺内ダム諸元（洪水調節機能の強化後）

型 式	ロックフィルダム
堤 高	83.0m
堤 頂 長	420.0m
集 水 面 積	51.0km ²
総貯水容量	約1,900万m ³
有効貯水容量	約1,700万m ³
洪水調節容量	約880万m ³



【参考】寺内ダム容量配分図

※赤字は今回の変更にて変更・追加した内容です。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）等の新たな取組の推進

三次元点群データを活用した三次元管内図等により、調査・計画、設計、施工、維持・管理や災害時の被災調査などの一連業務の高度化・効率化、地域の方々への事業説明や流域も含めた様々なデータの提供の取組や、行政サービス向上を図る占用許可等のオンライン化、降雨の予測技術への活用、水害リスクに応じた適切な避難行動等が図れるよう、リスク情報の3D化など、国土交通省が推進する地域の方々への行政サービス向上と、持続可能なインフラ整備・管理等につながるDXなどの新たな取組を推進します。

流域全体を視野に入れた取組

（省略）

筑後川水系では、令和3年（2021年）3月に「筑後川水系流域治水プロジェクト」をとりまとめました。

（中略）

引き続き、自治体等への支援や、流域のあらゆる関係者に筑後川流域のリスク情報等の提供により、流域住民に「流域治水」の取組に対する理解を深めていただき、参加を促進することで流域のあらゆる関係者が一体となった防災・減災対策を推進します。

（中略）

また、洪水調節に既存ダムの有効貯水容量を最大限活用できるよう、洪水調節機能の強化や事前放流による洪水調節を的確に実施するために必要なダム流入量の予測精度向上等の取組を推進します。



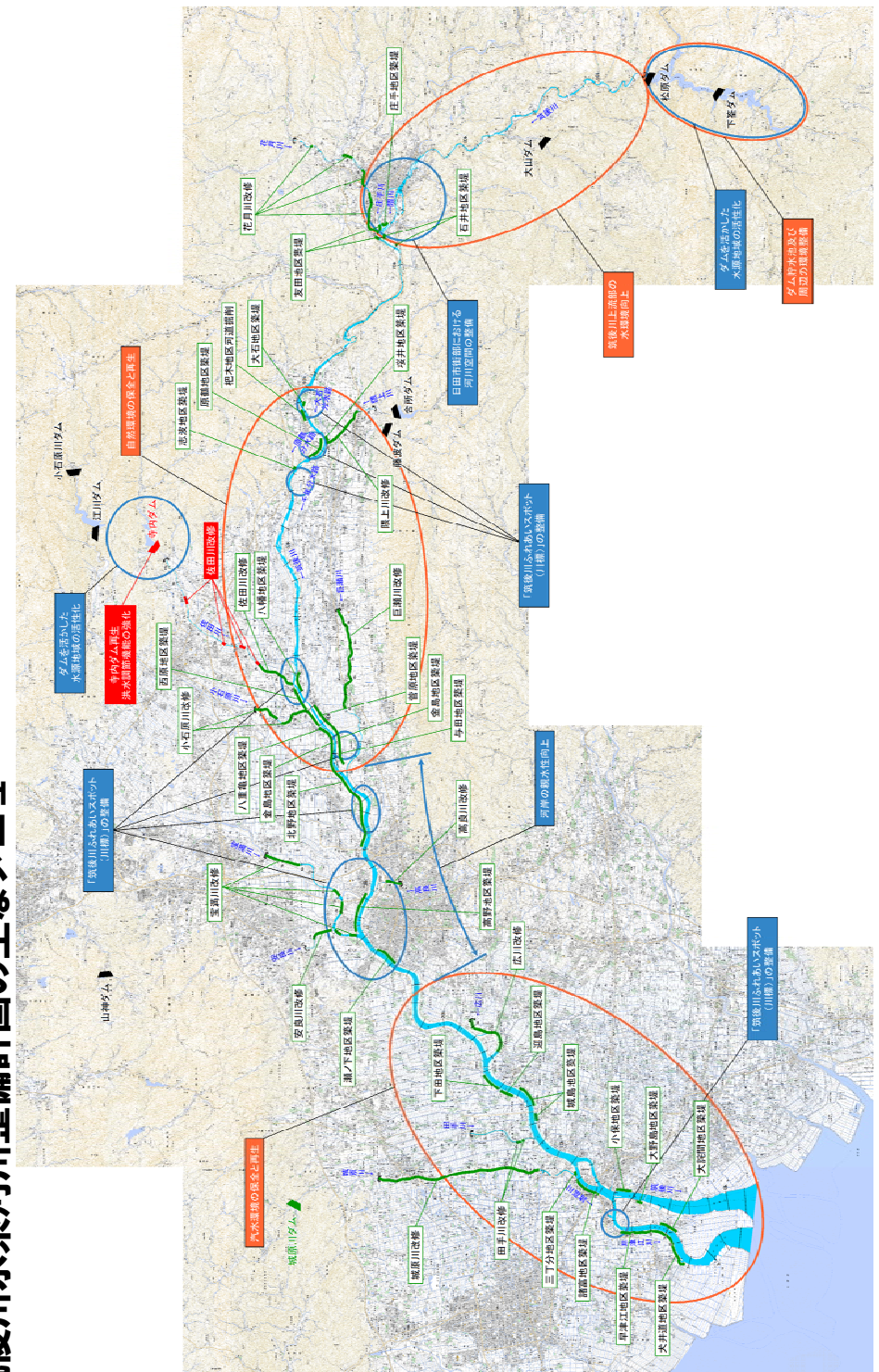
筑後川流域の持続可能な社会の形成に向けて

（省略）

その中でも、目標13【気候変動】は、気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策であり、河川整備計画は、まさに気候変動に対する対策を取り入れたものと言えます。また、関連する目標としては、目標4【教育】、目標6【水・衛生】、目標9【インフラ、産業化、イノベーション】、目標11【持続可能な都市】、目標14【海洋資源】、目標15【陸上資源】、目標17【実施手段】が挙げられ、持続可能な社会の形成に寄与するため河川整備計画を推進します。

※ 赤字、□は今回の変更にて変更・追加した内容です。

筑後川水系河川整備計画の主なメニュー



※ 赤字、■は今回の変更にて変更・追加した内容です。